2023年度4月入学金沢大学大学院法学研究科（修士課程）

第2期募集　学力検査問題解答例・出題意図

専　攻　法学・政治学専攻　選抜区分　一般

試験科目　法理学1　記載者氏名

解答例又は出題意図

問　ラートブルフ（Gustav Radbruch）とドゥオーキン（Ronald Dworkin）の法理論に関する次の問に答えなさい。

（1）　ラートブルフ定式について説明しなさい。第二次大戦前の彼の主張と戦後のラートブルフ定式の相違についても触れること。

出題意図：ラートブルフ定式の後半部分（否認定式）は彼の法概念（法とは正義に奉仕するという意義を持つ現実である）から導けるので、この点で戦前と戦後の主張に違いはないこと、ただし、正義の核心をなす平等原則に対して、戦前は「等しきものを等しく扱うこと」のみを要求する形式的な理解をしていたのに対して、戦後はすべての人に人権を保障することをも含むと理解していたという違いがあること、以上の知識を確認する問題である。

（2）　ドゥオーキンの法理論について、とくに彼のルールと原理の区分と、統合性（integrity）としての法という考え方に触れつつ説明しなさい。

出題意図：ドゥオーキンの法理論についての基礎的知識を確認するための問題である。彼によれば、ルールは「全」か「無」かの仕方で適用され、衝突することのない規範であるのに対して、原理は様々な重みをもつ、衝突しうる規範であること、原理はルールの根拠とみなされること、裁判官が判断をする際には、法令・判例・法的慣行等と整合的でありつつ、それらをより良く解釈した上で判断をすべきこと、そのような判断を「統合性としての法」と呼んだことを指摘できていればよい。

（3）　ラートブルフの法理論（とくに戦後のもの）とドゥオーキンの法理論の似ている点について説明しなさい。

出題意図：両者とも理想主義の立場に立ち、法実証主義を批判したこと。両者とも、法令等の一般規範よりも、裁判官の判断である個別規範の正しさに焦点を当てていたことの指摘が期待される。

以上